

現代会社法入門〔第4版〕

北村雅史 = 柴田和史 = 山田純子

2015年4月発売／420頁／本体2900円＋税
A5判／並製



編集 担当者 から

平成26年、会社法の改正がありました。親子会社法制の充実化や企業統治の強化がその柱でした。これらを織り込んで改訂したのが、この『現代会社法入門〔第4版〕』です。会社法は、技術的で複雑な法律です。社会に出て、企業で働いたり、実際になんらかの取引をした経験などがなければ、本当に難しく感じてしまうことでしょう。それを踏まえて、本書では、初学者の皆さんに、『なぜ』そうになっているのかわかるように心がけて解説をしていただきました。少しは実務の世界にも触れていただきたいのと、入門後のステップになれば、ということで、実務上の問題と学説の主要な論点はColumnにまとめてあります。

そして、本書の末尾に、「注意すべき用語」というコーナーがあります。学ぶ上で混乱しやすい用語、似て非なる用語、日常的に使うのとは違う意味で使われる用語などをピックアップして、コンパクトに解説しています。短いものですが、学習に役立つコーナーになっています。是非ご覧ください。(YF)

Index

I

勉強しやすいように、会社法典に沿った順で解説します。「注意すべき用語」もご覧ください。

第1編 会社法総論

- 第1章 会社の意義と会社法制
- 第2章 会社法の総則規定

第2編 株式会社

- 第1章 株式会社法総論
- 第2章 設立
- 第3章 株式
- 第4章 新株予約権
- 第5章 機関
- 第6章 計算・配当等
- 第7章 定款変更
- 第8章 事業の譲渡等
- 第9章 解散
- 第10章 清算

第3編 持分会社

第4編 社債

第5編 組織再編行為

- 第1章 組織変更
- 第2章 合併
- 第3章 会社分割
- 第4章 株式交換・株式移転

第6編 外国会社

第7編 罰則

◆「注意すべき用語」の例

自己株式と自己の株式、選任と選定、役員・役員等、計算書類等の提出と提供、剰余金の配当と利益の配当、など

◆Columnの例

株式の評価、内部統制システム、経営判断原則、新設合併が好まれない理由、など